

# ダイアログの事例

## 方向性合わせ

今回は事例として、プロジェクトやイベントなどの「方向性合わせ」の場でのダイアログについてご紹介させていただきます。

複数の人間で何かを始める時にとっても大切な方向性。事業であれば社長や役員などがそれを決め社員と一緒に会社を運営していきます。いろいろな要素が複雑に絡み合う今、求められているのはその中で「自分ごと」として動ける人材。そんなチームを作るのにもダイアログは大切な役割を担います。

ある時、ファシリテーション仲間たちとイベントをすることになりました。1月に開催するイベントに向けて、メンバーが最初に行うことに決めたのは、イベントの方向性を決めるための合宿を開催することでした。

合宿を開催したのは8月。ダイアログを始めてから何時間経ったところでも、言葉の表現ひとつに対してひとりでも違和感を持てば、またその部分について全体で話をして。結局合宿の初日は、昼の3時から始めて、夜中の2時までダイアログしました。

イベントを運営する中心となる10人全員が方向性を示す言葉の表現の仕方、すべての言葉の具体的な意味など、それぞれがきちんと納得できる状態までダイアログは続きました。

そんなことをしていたらいつまでも決まらないと思うかもしれません。実際のところその通りです。そのイベントに思いを持った人たちばかりなので、正直中々決まりません。でも、最初に時間をかけ方向性についてダイアログすることは、それぞれが「自分ごと」で動くチームを作るうえでは、とても重要なこととなります。

そんな話をすると、学生時代に仲間と想いをぶつけ合ったことを思い出す人もいるかもしれません。もしくは、職場などのリーダーの言うことに嫌々従いながら、何か作業を続けたことを思い出す人もいるかもしれません。

これを読んでくださっている人、それに僕も、今日までいろいろな体験をしながら毎日を過ごしてきました。その体験をチームでの活動に活かすためにも、そのチームの方向性に対して、しっかりと納得できる状態をつくることはとても重要なことです。

でも、それぞれが過ごしてきた毎日が違うので、同じ言葉を見ても十人十色。必ず違う意味として受けとる部分があります。なので、その言葉に対して「同じ想いを持っているだろう」という想いは捨てて、最初の段階できちんとダイアログすること、そうすることで、その先に生じる方向性のズレに対しての対応がしやすくなります。

ダイアログなので、ポイントなのは正しさを競うのではありません。ディスカッションであれば、どの方向性が正しいのかを話し合うことになりますが、ここではメンバー全員の根底にある想い、その想いが集合した言葉やイメージをカタチにすること、それが目的です。

そのためには、最後まできちんとダイアログしようというという、ダイアログに対する認識と、個人の想いに対して正直な人たちが集る必要があります。ある意味めんどくさい人の集いですね。

はじめに腹を割って話しをしたということが、のちのちの活動にとってお互いの情報交換のしやすさ、それぞれの役割での判断やその報告などのしやすさに関係してきます。

それに、イベントであればイベント当日を経てのふり返りの場まで、プロジェクトであればその期日まで、最初にダイアログした方向性を表すものを目にすれば、それぞれが自分の行き先を思い出すことができるし、わからないところを明確にしやすくなります。

きちんと自分を見つめながら、妥協ではなく協調を目指すこと、それがこの方向性を合わせる場に必要となるのですが、それはそのメンバーが普段どのように人と接するのかというのにも影響してきます。なので、普段からダイアログの場に参加している人同士の方が方向性を合わせるのに早くカタチになりやすいです。

もう一度言いますが、妥協ではなく協調です。協調とは他の人の意見も自分の意見もきちんと尊重した状態です。他の人の意見に従うのではなく、自分の意見を押し付けるのではなく、全員が心から納得した状態です。そんな場をつくるためのワークなどはまたこちらで紹介させていただきますね。

「14. 場づくりの要素 その1」でお話しした、ダイアログの場における目的や目標の重要性ですが、イベントの目的や目標を中心となるメンバーがきちんと持つことの重要性も同じです。目的、目標、やり方、メンバー、ルールをダイアログの場をつくる時と同じように決めることで、その後の流れが大きく変わってきます

最後にもうひとつ。この合宿に入る時のチェックインで参加者全員が合宿自体をどんな時間にしたいか、帰る時にはどんな状態になりたいかを共有して始めています。

個々のアウトカム設定がきちんとできているので、それぞれが自分の問いを持って方向性合わせの場に臨んでいる、そんな状態なのです。そうなるこの場でダイアログをすることで、チームの方向性が決まる過程で自分自身の探求も進み、自分の方向性を示すものを手にするきっかけとなるのははずです。

このように、個人においても、チームにおいても、カタチにする規模感は違えども、ダイアログを通じてカタチにしていくものとしては共通するものがあり、それがこの世界のひとつの共通項なのかもしれませんね。

読み終えた感想や質問、実践のシェアなど、もしよろしければ、下記の URL から「みんなのダイアログ」へのご投稿をお願いします。わかることもわからないことも、またそこで一緒にダイアログしていきましょう。

みんなのダイアログ

<http://cobaken.net/webdialog/index.php?qa>